

InterConnect 2015

A New Way

IBM

#ibmininterconnect

InterConnect 2015 | A New Way

InterConnect 2015 | A New Way

IBM InterConnect 2015

The Premier Cloud & Mobile Conference

IBMが主催する「InterConnect 2015」が、2015年2月22日から26日まで米国ラスベガスMGM Grand & Mandalay Bayにて開催された。

このイベントは、これまで「Pulse」「Impact」「Innovate」などの名称で別々に開催されていたイベントを統合したもので、「The Premier Cloud and Mobile Conference」と題され、過去にない規模の約2万1000人が参加した。

今回のテーマは「A New Way」。イベントは、クラウドやモバイルを活用した新しい方法でビジネスを変革するためのソリューションや事例の発表で構成された。

本稿ではモバイル関連の内容を取り上げるが、今回のイベントでは、世界的にも先進的で大規模なモバイル活用事例として日本の株式会社資生堂様の事例が紹介されたため、特に詳しくレポートする。

“A New Way to Think”

初日のGeneral Session “A New Way to Think”では、初めにIBMでクラウド事業を統括するロバート・ルブラン シニアバイスプレジデントが登壇し、現在のわれわれがいかに変化の激しい世界におかれているかということ、およびクラウドなどのテクノロジーがその変化を可能にしていることを訴えた。

「この新しい時代において、市場を破壊される側ではなく破壊する側に立つために、テクノロジーをどう役立てるのが重要だ」(ルブラン シニアバイスプレジデント)

そして、その実践例として、Airbusにおけるクラウド・モバイル・アナリティクスを活用した航空機のターンアラウンド・タイム改善の取り組みや、Citiにおける外部

のアイデアを活用して革新的なサービスを開発する試みである「Citi Mobile Challenge」などの事例が紹介された。

Mobile Enterprise

Mobile Enterprise Keynote Sessionでは、フィル・バカルー モバイル担当バイスプレジデントが登壇し、エンタープライズ・モバイルにおけるチャレンジと、それらに対応するために新たにデザインしたIBM MobileFirst Platformについてプレゼンテーションを行った。

市場は根本的に変化しておりモビリティのパワーによって多くの可能性が開かれているが、一方でテクノロジーシフトへの対応スピードが十分でないと市場から取り残されるリスクもあるとした上で、企業でのモバイル活用におけるチャレンジの例として以下を挙げた。

- モバイルへの依存が増えており、調査によると85%の企業が最大20のアプリのバックログをもっている。また、モバイルの世界では一度作ったら終わりではなく、短いスパンでアップグレードを繰り返す必要がある。
- 消費者の位置情報などのプライベート・データを提供することに対するハードルが下がっている一方で、セキュリティ・ブリーチを起こした企業に対する対応は厳しく、50%の顧客が離反すると言われている。
- モバイルが重要な位置を占めるに従ってモバイルで扱うデータ量が爆発的に増えており、今後5年間で10倍になると予想されている。

続いて、このようなチャレンジへの対応を支援するために新しくデザインしたIBM MobileFirst Platformの次期リリースを紹介した。

「次期リリースでは、モジュラー化のアプローチにより企業が直面するチャレンジに対して必要なものを選択できるようになっている」(バカルー バイスプレジデント)

新しいIBM MobileFirst Platformは、これまで提供されていたIBM Worklightの機能をベースに、ネイティブ・アプリ、ハイブリッド、HTML5、Cordovaなどのサード・パーティーのツールをサポートし、オンプレミスおよびクラウドのデプロイメント・オプションから選択して利用することができる。



(写真上)General Session "A New Way to Think"での
ロバート・ブルラン シニアバイスプレジデント
(写真下)IBM MobileFirst Platformについて紹介する
フィル・バカルー バイスプレジデント

また、モジュラー・サービスとして次の四つのモジュールが構成されており、必要に応じて選択することができる。

●Continuously Improve(継続的な改善)

アプリケーションの利用状況やフィードバックを収集し、品質を管理

●Secure(セキュリティ)

高度なユーザー認証、ローカル・データの暗号化、アプリ・スキャンなどによるデータ流出の防御

●Contextualize & Personalize(コンテキスト化およびパーソナライズ)

店舗におけるロケーション情報などを基に関連性やコンテキストに基づくモバイル体験を提供

●Enrich With Data(データリッチなアプリケーション)

Cloudantによるデータ・レイヤーを追加し、企業システム内のデータを保存、同期、拡張、接続

発表内容の詳細: プレスリリース(企業のモバイル戦略を加速する新たなIBM MobileFirst Platformを発表)

<http://www-06.ibm.com/jp/press/2015/02/2701.html>



ビューティートップスペシャリスト 関谷佳代氏、ビューティースペシャリスト 角谷美香氏によるデモンストレーション

“A New Way Forward”

3日目、イベントの最後を締めくくるとしてのGeneral Sessionでは、“A New Way Forward”と題して、クラウドやモバイルを活用した先進的な取り組みにおけるベネフィットにフォーカスした内容が紹介され、日本から参加された株式会社資生堂様の事例が大きく取り上げられた。

資生堂執行役員常務 関根近子氏とフィル・バカルー モバイル担当バイスプレジデントが登壇し、執行役員常務 関根氏より、89の国と地域でビジネスを展開し142年の歴史をもつ同社が、“おもてなし”と“イノベーション”により支えられてきたということと、グローバルで約2万人のビューティークンサルタントが資生堂のブランドアンバサダーであり、顧客体験の創出に責任をもっているという説明があった。

「ビューティークンサルタントによるお客さまとのリレーションにおいて、価値・喜び・驚きを提供したいと考えており、モバイルが一つの答えになった」(執行役員常務 関根氏)

続いてビューティートップスペシャリスト 関谷佳代氏、ビューティースペシャリスト 角谷美香氏が登壇し、資生堂のビューティークンサルタントが日常業務で活用している「ビューティークンサラー」を紹介した。iPad上で稼働する複数のアプリケーションの中からメーキャップシミュレーターを取り上げ、実際の活用シーンのデモンストレーションを行った。

メーキャップシミュレーターは、お客さまに化粧を落としていただくことなく、さまざまな種類や色のメー

キャップをシミュレートできるバーチャル・ミラーのようなアプリケーションであり、試したことのない色などを簡単に試せることで新しい発見にもつながる。会場では、実際にモデルが選んだ色をもとにビューティースペシャリスト 角谷氏がメーキャップにとりかかった。

次に資生堂情報企画部長 亀山満氏が登壇し、ビューティークンサラーによるおもてなしの変革にあたっては、「エンゲージメント」「カスタマーフィードバック」「チームワーク」の三つのゴールがあったことを紹介した。

●エンゲージメント

メーキャップシミュレーターをはじめとするアプリケーションにより、全く新しい方法を提供した。

●カスタマーフィードバック

IBM MobileFirst Platform上で開発された「Bureau」というアプリケーションの“お客さまの声”モジュールにより、お客さまや現場のセールスからのフィードバックを収集し、製品開発チームに迅速に連携することを可能にした。過去にはビューティークンサルタントが肌情報クリームなどを書いて連携するまでに1カ月近くかかっていたが、Bureauアプリケーションにより製品開発チームはお客さまのフィードバックを1日以内に受け取ることができる。このことが製品改善につながった例として、お客さまの声をもとに同社ブランドである「クレド・ポー ボーテ」のパッケージデザインを変更した例を紹介した。

●チームワーク

同じくBureauアプリケーション上で提供する“バーチャルコミュニティ”モジュールにより、ソーシャル



資生堂の歴史について紹介する 資生堂 執行役員常務 関根近子氏



ビューティー・タブレットによる変革について紹介する 資生堂 情報企画部長 亀山満氏

なやり方でビューティーコンサルタントがベストプラクティスや写真などを共有し、お互いの仕事にコメントして学び合う場を提供している。

このようなアプリケーションの構築はたやすかったかとの問いに対し情報企画部長 亀山氏は、ITの観点からのチャレンジとして次の三点を挙げた。

●オープン性

この点についてはMobileFirst Platformの持つフレキシビリティとプロダクティビティが役立った。マルチOSアプリケーションを開発できるだけでなく、これまでSystems of Recordの領域で積み上げてきたものを捨てることなくモバイルのインダストリーダイナミクスにアラインすることができる。MobileFirst Platformにより、アプリケーション開発とバックエンド・システムとの連携を3カ月で実現することができ、かつ継続的に改善リリースができています。

●セキュリティ

ビューティーコンサルタントはさまざまな公の場所でタブレットを使い、重要なデータにアクセスする。MobileFirst Platformは、デバイスにあるアプリケーション内のデータを暗号化できるため、オフラインでの使用性を損なうことなくセキュリティを確保することができた。

●スケーラビリティ

当初より日本国内の約1万人のビューティーコンサルタントが日常的に使用することを想定していた。MobileFirst Platformは、モバイル・アプリケーション

をエンタープライズ規模で開発、管理、デプロイする環境を提供している。

今後のプランについて情報企画部長 亀山氏は、「ビューティー・タブレットは、ウェアラブル、センサー、IoT (Internet of Things)などの新しいテクノロジーの取り込みを開拓する重要な役割を担っている。こういったテクノロジーの適用について、引き続きIBMに期待している」と語った。

最後に執行役員常務 関根氏が、「このようなITソリューションは、お客さまのニーズに応じていくための力になっている。これからもおもてなしの精神でイノベーションを継続していく」と発表を締めくくると、同時にモデルのメーキャップも完成し、会場は拍手にまつまれた。

* * *

今年のInterConnectでは、クラウドやモバイルなどのテクノロジーにより大きな可能性がもたらされる中、その変化をとらえビジネス変革を実現している企業の事例が多く紹介された。来年はどのような新事例が取り上げられるか、今から期待される。



日本アイ・ビー・エム株式会社
テクニカル・リーダーシップ 成長イニシアチブ推進
シニアアーキテクト

中村 裕
Yutaka Nakamura

日本IBM入社後、主に消費財メーカーのお客様を担当するエンジニアとして、ソリューション・アーキテクチャーの設計、提案に従事。2013年からは、クラウド、アナリティクス、モバイルなどの技術を活用したビジネス変革を支援する部門にて活動中。